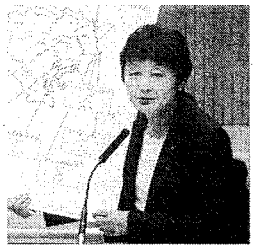
「しんぶん赤旗」（2012年3月17日付）

汚染測定・除染強めよ

都議会委 大山議員が知事に迫る

日本共産党の大山とも子東京都議は15日の都議会予算特別委員会で、低線量放射能による内部被ばく問題を取り上げ、食品検査体制の抜本拡充と学校・公園など都施設の汚染測定・除染強化を石原慎太郎知事に迫りました。



測定・除染を迫る大山とも子都議＝15日、都議会予算特別委

大山氏は「放射能の危険があれば極力、子どもから避けてやりたい」という母親の訴えを紹介。米の検査体制は水田15㌶に1カ所にすぎず、野菜は1自治体1検体という場合もあり、「安全宣言」の直後に放射性物質が検出された事例を示し、「これで食の安心・安全が確保できるとでも言うのか」とただしました。

石原知事は「親としてのセンチメント（感情）にかまけた心配はよく分かる」と答弁。都は現行の検査体制を十分とする立場を変えませんでした。

大山氏は日本産食品の輸入規制を行う国が出ていると批判。国に検査体制の拡充を求め、都に流通食品の検査の強化を迫りました。

大山氏はまた、区市町村や近隣県が保育園・学校・公園などで放射線測定・除染を進めているのに、都がかたくなに測定・除染を拒んでいることを追及。日本共産党都議団の調査で江戸川の土手下から土壌1キログラムあたり2万ベクレル超の線量が検出されたことなどをあげ、測定・除染を求めました。

大野輝之環境局長が外部被ばくと内部被ばくを混同し「ただちに健康に影響するものではない」と調査・除染を拒否したのに対し、大山氏は「2万ベクレルの土が、子どもたちが日常的に遊ぶ公園に点在している。それでも問題ないと言い張るのか」と厳しく批判しました。

自民都議が大山氏にヤジ

「放射能浴びた方がいい」

都議会に抗議、ネット上で批判

15日の東京都議会予算特別委員会で日本共産党の大山とも子都議が放射能による内部被ばく問題について質問していた最中、自民党の鈴木隆道都議（目黒区）が「放射能を浴びた方がいい。正常になるんじゃないか」とやじを飛ばしました。

やじは大山氏が葛飾・江戸川両区などの土壌や落ち葉から1キログラムあたり2万ベクレル超の放射性物質が検出された問題を取り上げた時に飛び出したもの。

都議会自民党は16日に総会を開きましたが鈴木氏は欠席。鈴木氏は本紙の取材に対し、都議会自民党政調会を通じて、大山氏にやじを飛ばした事実を認め、「取材には応じられない」とコメントしました。

都議会には「議員にふさわしくない」などの抗議が寄せられ、ツイッター（簡易ブログ）でも「心ない言葉」「『言い過ぎた』ではすまされない」との批判が多数あがっています。